

琉球大学学術リポジトリ

琉球大学 ALC NetAcademy
の実態と課題 – 学生によるアンケート調査の結果
から –

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学法文学部 公開日: 2009-12-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮平, 勝行, Miyahira, Katsuyuki メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002005194

<実践報告>

琉球大学 ALC NetAcademy の実態と課題¹
—学生によるアンケート調査の結果から—

宮平 勝行

I. はじめに

琉球大学 ALC NetAcademy (以下、NetAcademy) は、平成13年度の教育設備基盤充実経費を利用して導入された WEB 上で学習することのできる TOEIC 対策用の英語学習システムで、学内 LAN に接続された Windows パソコンを使って、いつでも学内のどこからでも利用できる画期的な学習プログラムである。琉球大学の在学生や教官なら誰でも初期登録をすれば 8 年間利用できる。その本格的な運用が平成14年度後期からスタートした。全学的な本格運用に先駆けて平成14年度前期に実用英語特演 (2 クラス) を受講した学生を対象に、講義外の時間に宿題や個人学習として利用してもらった。ここでは同クラスで実施したアンケート調査を中心に、NetAcademy の内容を紹介し、その教育効果について考えてみたい。

NetAcademy は、複数の学習レベルを設けたり、リスニング問題のスピードを変えたりできる機能がついており、個人で自主的に学習ができるように工夫されている。そこで、講義では英検や TOEFL といった、より需要の高い資格試験の対策を行い、TOEIC に関しては講義時間外に NetAcademy を利用して指導することにした。学生には学習の進捗度は常に教官がモニターしていることを伝え、レッスンをひとつ完了するごとに 1 点のボーナスポイントを与えることによって学習の動機付けを図った²。次に紹介するのは学期末に行ったアンケート調査の結果の一部であるが、講義自体の評価とは異なり、NetAcademy のみの評価と捉えることができる。

II. アンケート調査の結果

できるだけ率直な評価を引き出すため、設問は一般的なものとどめ、自由回答式にし、無記名で答えてもらった。学生には5段階評価をしてもらい、併せて自由記載欄に具体的なコメントを記入してもらった。全体的な傾向が把握できるように、まず5段階評価の数値を示し、コメントの一部を以下紹介する。受講生の数は2クラス併せて47人、アンケートに回答した学生は41人であった。

A. 学習システムに関して

とても 使いやすい	使いやすい	ふつう	やや 使いにくい	使いにくい
6	16	10	5	4

学習システム全般の使い勝手については概ね高い評価が得られた。「使いにくい」を選択した回答者は、初めて利用する際に必要なパソコンの初期設定でこずった者が多く、初回の体験がプログラム全体の印象を悪くした経緯が見受けられる。この問題点については導入時に着実な技術的指導を行うことで回避できるものと思われる。また、使いにくい具体的な理由の中で見受けられたのは、パソコンの性能が悪いことに起因するものや、他のメモリ常駐ソフトとの干渉によると思われるものがあった。繰り返し見られたのは、「学外で（自宅で）使えない」という苦情であった。この点についてはローカルネットワークごとのライセンス販売体系に違反するため実現は難しいのが現状である。ライセンス体系を改定し、登録ユーザーなら自宅からでも利用できるような学習システムに発展させることが将来的な課題として浮き彫りにされた。

自宅から利用できないので不便だという意見がある反面、パソコンの操作が簡単で、学内ならいつでもどこでも使えるので便利だというコメントも多かった。「自分のペースにあわせて」「スケジュールの空いた時間に」学習できることは学生にとって大いに役立っている様子である。特にリスニングの練習問題に対するコメントが多く、教材のスピードを変えられることができることや解答後すぐに結果がわかる点は好評であった。

B. 内容に関して

とても満足	やや満足	ふつう	やや不満足	とても不満足
11	23	3	4	0

学習内容については数値の面でも個別のコメントを見ても総じて高い評価を得ている。「とても満足」と「やや満足」をあわせた回答数（34）は全体（41）の82.9%を占めている。高い評価につながった理由をコメントの中に見てみると、最も多かったのは学習プログラムの数が豊富で、習熟度に適した学習レベルを選択できる点を挙げたものだった。「個人のレベルにあっている」、「自分にあつたレベルで学習できる」、「段階的に自分の実力を伸ばすことができる」など、極めて肯定的な評価が見られた。また、解答後すぐに採点結果を見ることができ、TOEIC 試験に換算したスコアなども表示してくれる点も好評であった。個別の解答に対する解説に関しては賛否両方の意見があつたが、「解説が詳しく役に立つ」という意見が「物足りない」という意見を数の上で上回っていた。

クイズについては「つまらない」というコメントがあつた。また、TOEIC 模擬テストは縮約版であり正規のテストと同じ量の問題が欲しい、という意見や問題数が少ないなどの意見も散見された。これらは短いレッスンを持続的に行う意図からすると学習者への負荷が大きくなると思われるが、やはり実践の模擬テストをやってみたいという要望があることは留意すべきである。

C. あなたの英語学習に役立っていますか

大変役に立つ	多少役に立つ	ふつう	あまり役に立たない	役に立たない
15	19	5	2	0

英語学習に役に立つかという問いに対する回答は教師が最も知りたい情報ではないだろうか。回答を数値で見ると、82.9%の学生が「大変役に立つ」もしくは「多少役に立つ」と評価している。Web上で個人学習をするという新しい学習方法に対して大半の学生が前向きに評価している。こうした高い評価を見ると、NetAcademy を利用した新しい英語学習の試みは学生にとって

大きな恩恵をもたらしてくれるものと思われる。もちろん高い評価の背後には学生の英語に対する強い学習意欲があることも忘れてはならないだろう。現に学期終了後も利用したいという要望が非常に多かった。

この項目で顕著に多かった回答がある。「リスニング力が伸びる」というものである。総じて学生はリスニングに対して苦手意識が強く、あらゆる機会を活かしてリスニング力を伸ばす努力を払っていることがひしひしと伝わってきた。NetAcademy を使えば、「自分の好きな時間に」、「ステップ・バイ・ステップ」で、しかも「教材のスピードを調整しながら」学習ができるのでとても役に立つというコメントがかなり多かった（41人中15人がリスニング力が伸びると評価していた）。マルチメディアを駆使し、リスニングの学習を自分の習熟度にあった方法で自在に行えるというのは、Web とネットワークを活かした学習システムならではの利点と言える。また、単語帳の機能などを使うことによって語彙力が養成できるというコメントも比較的多かった（6人）。メモを取る感覚で新出単語を Web 上に記録できるため、学生は利用するたびに参照することができる。その他、役に立つ点として挙げられたのは、問題と解答の解説が有益であることや、英語力のレベルが把握できること、繰り返し学習することで実力がつくなど、極めて肯定的な評価が見られた。

あまり役に立たない理由としては、前述のように自宅で利用できないことや、キャンパス内でも利用できる設備と場所がなかなか得られないという点が挙げられた。中には学習内容が難しすぎたという意見もあった。更に、目が疲れるなどの不満も散見できた。より身近で利用できるように教育環境を整備することや、目の負担を軽減できる設備投資が必要であることがアンケートの結果ら伺える。

D. NetAcademy はどのような方法で用いるべきだと思いますか

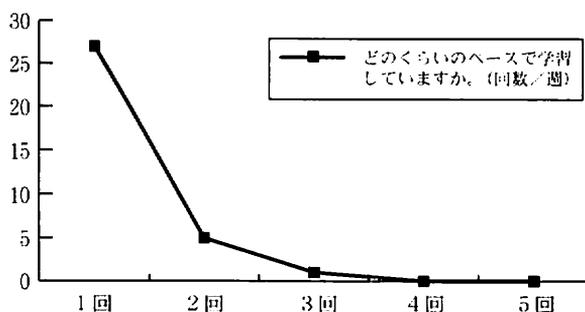
この質問に対する回答は選択肢を設けず、自由に書いてもらった。その中からわかったことは、授業で使って欲しいという要望があった反面（5人）、授業外で補助教材として用いたり、課題として与えたりするなどの自主学習方式が良いと答えた学生（8人）が前者を数の上で上回ったということである。自主学習がよいと判断した理由は、英語力に個人差があるので授業で利用するの

は難しいというものから、いつでも自由に、気軽に、どんな場所でも利用できるように自主学習用途で用いるべきだというものがあった。この設問に対する回答の中でも自宅で使いたいという要望が多く、入学生全員にパスワードを発行して自由に利用できるようにして欲しいという要望も見られた。

E. 学習の実態

学生が NetAcademy をどのように利用したかを把握するために、複数選択可能な設問を四つ設けた。その結果を見ると、NetAcademy を利用した学習がどのように行われているのか、その傾向がつかめる。一週間の使用頻度は1回が圧倒的に多く、より熱心な学生が2、3回と答えた（グラフ1）。日々の積み上げが大事な外国語学習にとってこの数字は満足のいくものではない。使用頻度が低い理由のひとつは前述したように、より手軽に利用できる教育施設環境が十分に整っていないことが考えられる。学生が NetAcademy による学習に取り組む理由で最も有力なものが「英語に興味があるから」という結果であることからしても、手軽に利用できる環境が整えば使用頻度も増すものと思われる（グラフ4）。

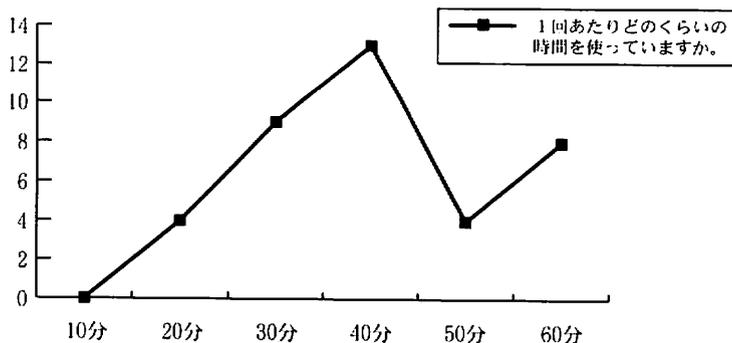
グラフ1： 使用頻度



利用時間の長さを示すグラフは二つの山を示している。一回の利用時間は40分をピークにそれ以上の時間がたつと減る傾向にあるが、興味深いことに60分以上になるとまた増えることがわかる。これらの結果からひとつのレッスンを終了するのにほぼ40分かかることが推察できる。60分以上を示す数値が高いの

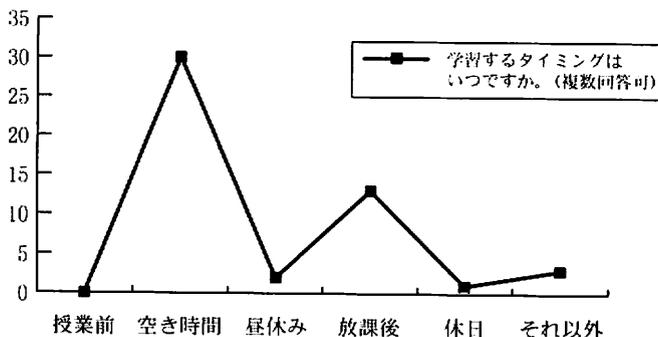
は、一度に二つ以上のレッスンをこなす学生もいることを示していると言える（グラフ2）。

グラフ2： 利用時間の長さ



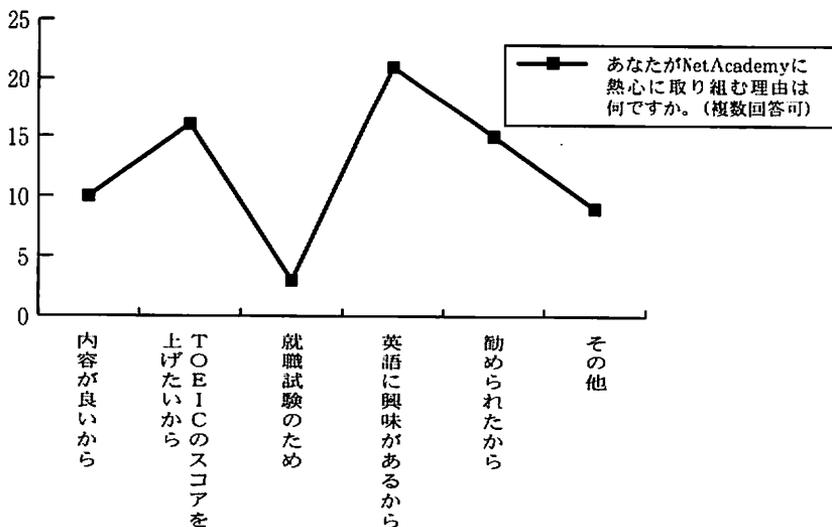
利用時間帯は空き時間や放課後に集中していることがグラフ3からわかる。講義のない空き時間や一日の講義が終わったあとでゆったりと過ごせる時間は、ややもすると無為に過ごしてしまいがちだが、NetAcademyのような自主学習システムを利用することによって有効に時間を活用できる。また、講義の合間を縫って学習することで、講義で学んだ内容を補完することができ、また逆に講義の内容が更に理解できるようになる相乗効果も期待できる。

グラフ3： 利用時間帯



これまで述べてきたように学生が英語を学ぼうとする意欲は概ね高い。では、その理由はどこにあるのだろうか。グラフ4はひとつの興味深い示唆を与えてくれる。

グラフ4：NetAcademyに取り組む理由



NetAcademyはTOEIC対策用に製作された学習システムであるにもかかわらず、「英語に興味があるから」(21人)という理由が、「TOEICスコアを上げたいから」(16人)という理由を上回っている点だ。検定試験のスコアを上げるため、もしくは就職試験のため(3人)といった、より短絡的、実利的な理由よりも純粋に英語に興味を覚え、外国語を通して異なった生活世界を体験したいという願望をこの結果から推察するのは果たして行き過ぎだろうか。「英語に興味があるから」を選んだ背景には様々な動機が潜んでいると思われるが、いずれにせよこのように主体的に取り組んで初めて外国語力は伸びることは間違いない。

Ⅲ. 今後の課題

これまで NetAcademy に対する学生の評価と学習の実態を個別に見てきた。アンケート全体の結果を通して一体何が見えてくるのだろうか。

まず注目したいのは、学生の NetAcademy 学習システムに対する評価と英語学習に向けられる熱意は極めて高いにも関わらず使用頻度が低いという矛盾した結果だ。学習の動機と優れた道具が揃った状態でそれに見合った結果が導き出せないとすれば、それはやはり運用面で障害をきたしていると考えられる。「使いやすい」と評価された学習の道具を十分に活用するにはより手軽に利用できる環境を整備することが喫緊の要事である。いつでも利用者の好きな時間に好きなだけ学習できる環境が必要なのだ。また、本学習システムにユーザー認証機能を付加し、利用者が自宅からアクセスして利用できるように改良を図ることによって利用回数は飛躍的に伸びるものと思われる。最もくつろげる空間で周りの利用者に迷惑にならないか気にせず利用できることが最善の改善策であることを今回のアンケートははっきりと示してくれた。

今回のアンケートは、学生にとって最も関心が高いのはリスニング力の向上であることも明らかにしている。学習プログラムの評価が高かったのは、リスニングの練習問題が充実しており、話すスピードを自由に変更できる機能などが優れている点にあった。ところが、ヘッドホンがついていないパソコン端末を利用すると、隣の人に迷惑になってしまい、利用するのをためらってしまう。ヘッドホンがついた端末であっても、耳で聞いた録音教材を自分で発音すると、これもまた隣人の不興を買ってしまうことになりかねない。その点においては個室での学習が万全だといえるが、ラボ室のような大きな教室でもブースで隣人との間に仕切りを設けることで問題は緩和されるものと思う。先述したように、自宅のプライベートな空間で利用できるようになれば、この問題も一挙に解決する。

アンケート結果で最も印象に残ったのは学生の学習意欲の旺盛さだ。自発的に英語を学びたいという動機が、「勧められたから」といったような消極的な理由を凌駕している（グラフ4）。こうした学習意欲に応えるために何ができ

f だろうか。教員採用試験で全受験者に英語の面接が課され、TOEIC のスコアで昇進・昇給が決まる昨今、「英語に興味があるから」と回答した学生にもっとはつきりとした目標を見出させることが肝要ではないだろうか。外国語学習に欠かせない継続の精神力を身につけるには、外国語学習を通して異文化を経験することにより、人生を豊かにするといった目的に加え、達成可能な具体的目標が不可欠であると思われる。米国の大学院に進学するには TOEFL で550点が必要だとか、外資系企業に入るには TOEIC で730点、通訳を目指すには通訳試験に合格しなくては、などといった現実的な目標である。ここで紹介した NetAcademy はそのような具体的な目標を持った学生には大きな力になるはずである。

註

1. 琉球大学 ALC NetAcademy は (株) アルク教育社と日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社によって共同開発された英語学習システムを琉球大学に導入したものである。
2. 教師はサブ管理者としてユーザー登録することによって、自分の講義を受講している学生の習熟度レベルや学習進捗状況、各レッスンの成績を Web 上で閲覧できるようになっている。